

## 第1回斐伊川水系中流支川域川づくり検討委員会 議事要旨

日 時：平成27年11月6日(金)10:00-16:00

場 所：雲南合同庁舎及び現地視察

出席者：別紙出席者名簿のとおり

報 道：1社                      傍聴者：無し

### 議 事

#### 1. 委員会設置要綱説明及び委員紹介

別添委員会設置要綱、委員名簿のとおり

#### 2. 河川整備基本方針、河川整備計画の制度について

資料1について事務局より説明

#### 3. 斐伊川水系中流支川域河川整備計画について

資料2～4について事務局より説明

#### 4. 質 疑

##### (1) 河川整備計画本文・付属資料について

・整備計画で整備する4か所の箇所を選定理由について。それ以外の樋門等の改修の計画が示されることがあるか。

→(事務局) 小規模の水門樋門を含めると多数ある。今後50年間の施設長寿命化計画の中で、国の交付金対象になる大規模施設として4施設を計画に挙げている。それ以外の小規模施設も県費により長寿命化計画に基づき修繕を実施していく。

雲南県土整備事務所では小規模施設は河川巡視員2名を配置することで簡易な修繕を含め対応している。

・請川の排水ポンプ設置の要望があるが、改修計画はどうか。

→(事務局) 要望は把握しており、県河川全体での優先度も考慮して改修を検討したい。

・行政が主導で地域住民がついてこない、どう啓発するかが重要。ハードフルしまねの状況がどうなのか道路ではよく聞くが河川はあまり聞かない。今後の方針等を伺いたい。

→(事務局) 雲南県土でハードフルしまね全体では20団体程度登録されており登録人数は1万人となる。大東町は住民全員が登録されている。活動状況は高齢化の課題があり、フォローが必要と考えている。表彰制度があり河川分野の活動でも表彰された。

・流域と行政の境が異なる。例えば人口は流域境で区分・集計したものか。

→(事務局) 関連市町として極力流域に近いまとめ方をしているが、集計が流域そのものとはなっていない。

## (2) アンケートについて

・アンケートで改修要望や維持修繕の要望が記載された場合に整備計画に反映させることが出来るのか？

→ (事務局) 自由意見での記載は参考とさせていただきたい。意見があっても直ちに改修に着手することは困難であり、今後県内河川の状況\*を見ながら対応を考えたい。

\*各河川の治水安全度や上下流バランス等の状況

・維持修繕、特に浚渫等の河床掘削要望が強く実施する箇所を明記する等で、住民に分かるようにするべき。

→ (事務局) アンケートにより河川毎の傾向を把握することで今後の維持管理等の参考にさせて頂きたい。

・過去の洪水の記載があると改修が必要となるので、ここまでの改修状況、一定程度の改修を説明したうえで、今後は長寿命化や維持管理が必要という理解を求めたほうがよい。

・出雲市の地区名の選択肢は不要ではないか。

→ (事務局) アンケート対象の地区に修正する。

・オオサンショウウオは特別天然記念物ではないか。子供向けアンケートに分かりやすいように入れたほうが良いのではないか。

また、合併前町村名の記載で、旧〇〇町とあるが今後20年の計画でもあるので雲南市〇〇町の現在名称としたほうが良いのではないか。

→ (事務局) ご指摘の点について修正及び見直し(旧の表現はしない方向)をしたい。

・現地視察で長寿命化の重要性が分かった。しかし、国の交付金での整備のみではなく、アンケートを取る意味は環境、維持管理等の文言を入れるためであるが、20年の川づくりの具体的な対応を年次計画のようにはっきりさせるべきだと思う。

→ (事務局) 管理者として、各河川の状況を把握し、維持管理計画(河川の埋閉等、治水上の支障が大きい箇所からの年次的対策や日常の点検に関する事項等)は持っているが、整備計画の本文等、公表ベースで示すことまではしていない。

今回のアンケート項目で各河川の状況も把握でき、結果を附属資料に記載する。現在、県河川課のホームページには、整備計画の本文のみを掲載しているため、流域の皆様がわかるような工夫はしたい。

・避難行動要支援者への対応を雲南市で力を入れ計画を立案している。選択肢に項目として入れたほうが良い。

→ (事務局) ご意見を反映して設問に加えたい。

- ・ アンケートの活字の大きさ、構成、文字のメリハリ等は多くの目で見ても工夫してほしい。  
それが、回収率にかかわる。本文や付属資料もやさしい言葉で見直しをしてほしい。

→ (事務局) アンケートについては、配布期限までのところで、見直したものを委員の皆様へ送り、再度確認してもらいたい。本文、付属資料もそのように見直した原案を作成したい。

- ・ 住民協働について、清掃や草刈がどの程度、治水等に影響があるのか明らかに出来ないか。  
その効果により高齢化等への対応を考えておく必要がある。

→ (事務局) 除草や樹木伐採は治水上の支障を避けるために洪水時には必要なもので、除草や清掃は堤防点検等のために欠かせない。

- ・ 単純に予算確保ではなく手間の問題であり、どのように国が評価しているのか、国土を、河川をどう維持するか具体的な議論することが必要。

→ (事務局) 現実的な課題である。県内部及び国とも協議なり議論をしていきたい。

- ・ 河川整備は治水が一番で環境は言いにくい面がある。アンケート問6は生き物が少ない、川が単調だというのはみんな感じているところだと思うがすべての箇所を治すことは困難でありひとつのモデルとして生息環境の多様性ということモデルとして作ってほしい。

また、大東から木次への2つの堰堤には両方とも魚道があるのか。堰堤での死水域、湛水域が長いと感じた。河川環境としては、少しでも川が流れているのが望ましい。

→ (事務局) 環境事業が近年なくなってきた。小規模であるが、維持修繕工事の際に工夫をしていきたい。原案にも、生物の多様性の創出についての表現を可能な範囲で盛り込みたい。堰堤については、魚道の設置等、すぐに対応というのは困難である。現地を見た上で、許可工作物の管理者とも、少しでも川の流れができるような堰の操作等ができないか相談したい。

- ・ 文書の表現やアンケートの内容について反映してもらい、さらに内容は練ってもらい、より良いものとしていけるよう、随時、委員にも諮って進めてもらいたい。

委員さんの方から、直接、事務局に言ってもらってもよい。